

平成 28 年のアユ資源調査結果概要

寺井章人・井出充彦・田中秀具・孝橋賢一・大山明彦

1. 目的

アユの資源水準や成育状況の指標とするため、魚群調査、産卵状況調査、ヒウオ生息状況調査および成育状況調査を実施した。

2. 方法

魚群調査では、1月から8月まで各月1回、北湖の水深30m等深線付近の定線調査コース上に出現する魚群数を観測した。

産卵状況調査では、8月から11月にかけて5回、北湖に流入する11河川の産卵場においてアユの産卵量を調査した。

ヒウオ生息状況調査では、10月から12月まで各月1回、北湖において網口1m×2mの角形幼生網による1,000mの水平曳きを18回

行い1曳網あたりのヒウオ採集尾数を求めた。

成育状況調査では、エリとヤナの漁獲標本を収集し、体長等を測定した。

3. 結果

魚群数は平年の49～438%で推移した(図1)。産卵量は213.8億粒で平年の約202%であった(図2)。ヒウオ生息密度は平年の13～283%で推移した(図3)。漁獲魚の平均体長は、エリではほぼ平年並み、ヤナでは漁期を通して平年を下回る推移を示した(図4)。

このように産卵数が多く、魚群数が高水準で推移し、ヒウオ生息密度も高いことから、初期の加入数が多いと推定された。

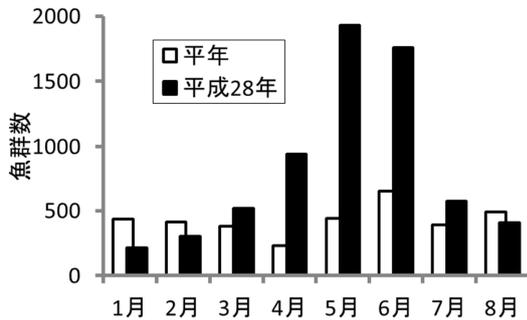


図1 魚群数の推移

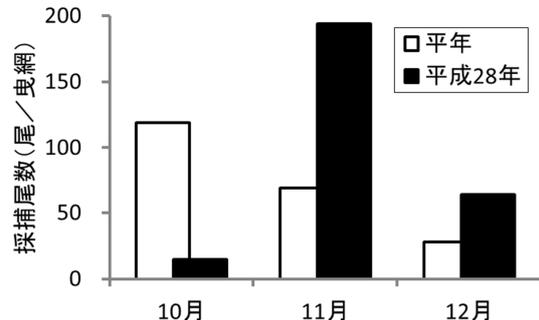


図3 ヒウオ生息密度

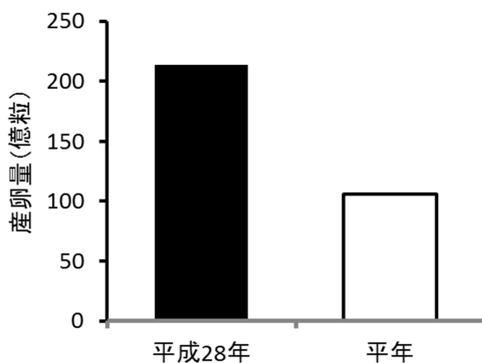


図2 天然河川における産卵量

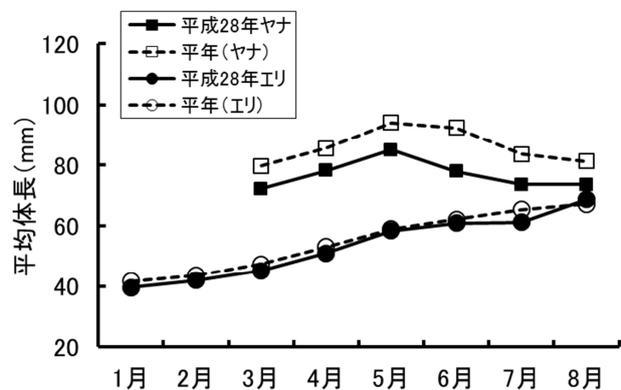


図4 エリヤナ漁獲魚の平均体長

注) 平年値とは過去10年から最大最小値および欠測年を除いた平均値